

生物学は興味深い ～こうち総文 WEB SOUBUN on YouTube～

◇期 日 令和2年7月31日（金）～10月31日（土）

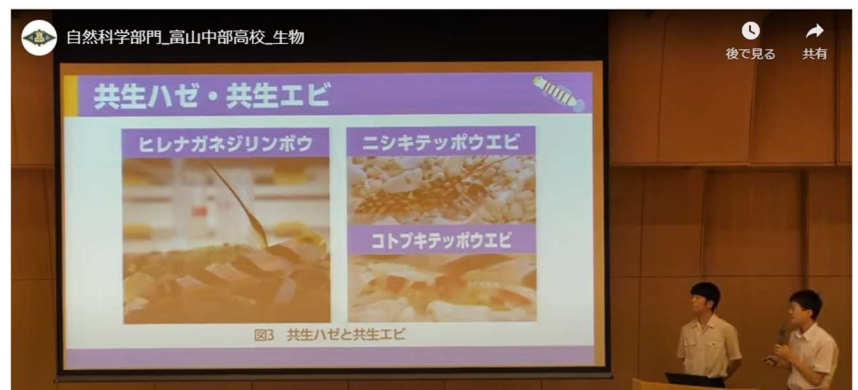
◇場 所 こうち総文祭 WEB SOUBUN サイト

<https://www.websoubun.com/dept/science/biology/page/017.html>

◇参加者 白川恵太（34H）・田中慎之助（34H）

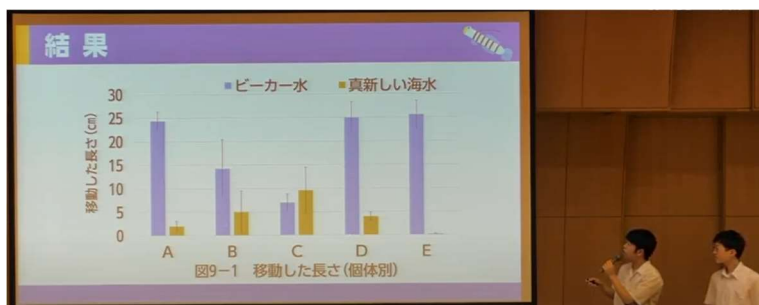
◇指導者 真野佳余先生

第44回全国高等学校総合文化祭「2020 こうち総文」が、COVID-19の影響を受けながらも、WEB上の発表・交流という形で開催された。実行委員会をはじめ、関係者の熱意と創意工夫により、今までにない形の総文祭が作り上げられた。参加する全国の高校生と直接会って交流できないが、WEB総文の特設サイトが10月31日まで開設され他校の発表や展示を鑑賞できるので、仲間とともにお互いに高めあうかけがえのない時間や文化芸術活動の素晴らしさを共有したい。



私たちは、自然科学部門の研究発表・生物部門で「ヒレナガネジリンボウとテッポウエビ類の共生関係について」と題した研究を発表した。スライドにユニバーサルデザインを全面導入し、発表風景の撮影時は、その場所にいない聞き手を意識した発表を心掛けた。今回は聞き手と直接のやりとりができないので、この発表動画に自分たちの研究に対する思いや直向きさを込めた。

総文祭は、文化・芸術活動に取り組む高校生の祭典として、開催地の生徒が主体となって、地域の主体性と若い世代ならではの感性を活かした大会づくりがなされ、未来に向けた豊かな文化創造の土壌を培う上で重要な役割を果たしてきた。私たちも、未来の文化創造を担う一員として、様々な分野の研究に触れ、物



事を深く知り、多角的な視野を備える研究者を目指したい。

今大会への参加を通して、「文化」とは何かを再認識し、全国の高校生との繋がりを実感することができた。最新技術を駆使し地域の生物を

保全したり、生物多様性にまで視野を広げて取り組んだり、趣向を凝らした研究が多く大いに刺激を受けた。今回はWEB上ですべての研究を閲覧することが出来る。それらの研究はSS部や探究科学科に限らず、全生徒に普遍的な価値を有するものである。是非ご覧ください。

最後に、COVID-19の影響により先行きが見通せない中、開催をご決断いただいた大会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。